

職場 紹介

技術を磨く。夢を叶える。
あなたの笑顔をまっています。

●言語聴覚士



作成 国立病院理学療法士協議会中国四国部会
国立病院作業療法士協議会中国四国グループ部会
国立病院言語聴覚士協議会中国四国グループ部会

中国四国グループ関連病院・施設の紹介

ページ



鳥取県

- 鳥取医療センター 3
- 米子医療センター 5



島根県

- 松江医療センター 6
- 浜田医療センター 8



岡山県

- 岡山医療センター 10
- 南岡山医療センター 12
- 長島愛生園 14
- 邑久光明園 16



広島県

- 呉医療センター 18
- 福山医療センター 20
- 広島西医療センター 22
- 東広島医療センター 24
- 賀茂精神医療センター 26



山口県

- 関門医療センター 27
- 山口宇部医療センター 29
- 岩国医療センター 31
- 柳井医療センター 33



徳島県

- とくしま医療センター東病院 35
- とくしま医療センター西病院 37



香川県

- 高松医療センター 39
- 四国こどもとおとなの医療センター 41
- 大島青松園 43



愛媛県

- 四国がんセンター 44
- 愛媛医療センター 46



高知県

- 高知病院 48



鳥取医療センター

対象病期

高度急性期

急性期 ✓

回復期 ✓

長期療養 ✓



対象疾患



脳血管 ✓



運動器 ✓



呼吸器 ✓

心臓

がん



神経難病 ✓



重症心身障害 ✓



発達障害 ✓



精神科 ✓

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 精神疾患医療の中核施設
- 2 神経難病・重症心身障害に対応
- 3 パーキンソン病センターを設置

鳥取県東部を診療圏とする精神疾患に関する中心的施設であるとともに、神経・筋疾患、呼吸器疾患、重症心身障害に対する専門的医療機能を備えた医療機関です。地域医療では、回復期リハビリテーションや認知症診療に力を入れており、近年は「パーキンソン病センター」を開設し、県内外の患者さんに専門的な医療を提供しています。

リハビリスタッフ



PT 20名



OT 23名



ST 8名

回復期から維持期まで幅広い分野のリハビリテーションを経験できます。多職種連携を重視し、「患者ファースト」の精神で診療に取り組んでいます。また、症例発表や勉強会、資格取得支援など教育体制も充実しており、専門性を高めながら成長できる環境です。

(職場長より)

アクセス

〒689-0203

鳥取県鳥取市三津876



☎ 0857-59-1111 (代)

リハビリテーション科

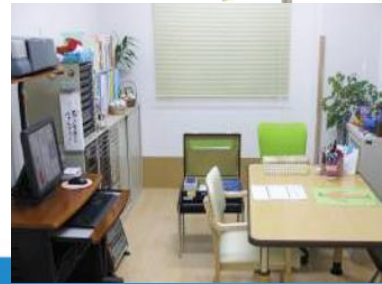
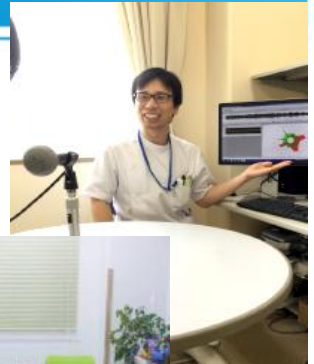
理学療法士長・作業療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当院の言語聴覚療法では、回復期、重症心身障害、神経難病、精神の4領域で、多職種と連携したチーム医療を実践しています。患者さん一人ひとりの生活背景や価値観に寄り添い、在宅復帰、復職・復学、運転再開など多様な目標に応じた支援を行っています。また、小児から成人まで幅広い対象に対応し、パーキンソン病短期集中リハビリテーションや発達外来、VF・VE検査に基づく嚥下訓練など、専門性の高いリハビリテーションを提供しています。「その人らしい生活」の実現を目指し、質の高い支援に努めています。



教育体制・学術活動

新人教育では、当科独自の教育プログラムに基づき、プリセプターを中心に社会人基礎力とSTとしての専門知識・技術の習得を支援しています。また、院内ではさまざまな研修が開催されており、他部門の研修にも参加できるため、職種の垣根を越えて自己研鑽に励むことができます。さらに、LSVT® LOUDなどの専門資格取得支援も行っており、成長を後押しする環境が整っています。

学会発表:令和7年度_0件
難病研修会の講師などを務めています

多職種連携

各病棟では、患者さんの状態に応じて多職種カンファレンスを開催し、医師・看護師・リハビリテーションスタッフが連携して訓練の進捗や在宅復帰支援について検討しています。また、院内委員会やラウンドにも積極的に参加しており、ST部門ではNST（栄養サポートチーム）、摂食嚥下障害対策委員会、もの忘れ外来などで多職種と協働し、専門性を活かした活動を行っています。

先輩からのメッセージ

鳥取医療センターは、小児から成人、回復期、神経難病、重症心身障がい児者分野まで、幅広い領域を学ぶことができる環境です。経験豊富で相談しやすいスタッフが多く、日々の臨床を通して多くの学びや刺激を得られることも魅力の一つです。経験年数10年を超えた私自身も、まだ関わっていない分野があり、日々学ぶことの多さを実感しています。私は主に回復期病棟で、嚥下障害、失語症、高次脳機能障害など、生活に直結する支援に力を入れながら、その人らしい生活を支えられるよう取り組んでいます。（入職11年目）





米子医療センター

対象病期

高度急性期

急性期 ✓

回復期

長期療養



対象疾患



脳血管 ✓



運動器 ✓



呼吸器 ✓

心臓



がん ✓

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 整形外科から内部疾患まで幅広く対応
- 2 がん・緩和ケア患者にもリハビリ提供
- 3 土日祝も継続したリハビリを実施

整形外科（上下肢・手指の骨折、人工関節、靱帯損傷等）呼吸器・循環器の内部疾患、がん（周術期含む）、緩和ケア病棟患者も含め、様々な疾患を対象としています。令和6年12月より地域包括医療病棟の導入にともない、土日祝～長期休暇でも一定の患者さんに対してリハビリを提供しています。

リハビリスタッフ



PT 11名



OT 4名



ST 2名

(未配置)

スタッフ同士で相談・協力しあってリハビリ部門を盛り上げていけるよう、1人1人が声掛けしあえる雰囲気づくりを目指しています。個々の能力を高めていくことも必要ですが、組織としてスタッフが支え合うシステム作りを考えています。（職場長より）

アクセス

〒683-0006

鳥取県米子市車尾4-17-1

☎ 0859-33-7111（代）

リハビリテーション科
理学療法士長まで



対象病期

高度急性期

急性期

回復期



長期療養



対象疾患

脳血管障害

運動器



呼吸器



心臓



がん



神経難病



重症心身障害



発達障害



精神科

ハンセン病遺言

当院の特徴

- 1 呼吸器センターとしての高度な診療
- 2 神経難病拠点病院としての役割
- 3 重症心身障害医療への対応

島根県～鳥取県西部を診療圏とし、呼吸器疾患・神経筋疾患・重症心身障害医療の3分野を専門とする医療機関です。地域の「呼吸器病センター」として高度な診療を担うほか、神経難病分野では島根県の難病診療分野別拠点病院（神経）として、専門性の高い医療を提供しています。

リハビリスタッフ



PT 10 名



OT 5 名



ST 3 名

「ともに考え、ともに成長する」ことを大切に、医療者・組織人として成長できる環境を整えています。ワークライフバランスを重視し、互いに支え合えるチームワークの良い職場づくりを目指しています。（職場長より）

アクセス

〒690-8556 島根県松江市上乃木
5-8-31



0852-21-6131 (代)

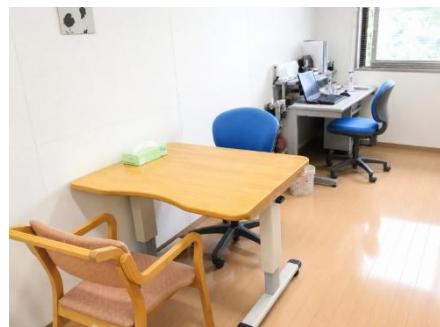
リハビリテーション科
理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当院では、神経難病、呼吸器疾患、重症心身障害を中心に乳幼児から超高齢者まで幅広い患者さんに対してリハビリテーションを行っています。摂食嚥下訓練や発声・発語訓練、発達訓練を中心に、一人ひとりの生活に寄り添った支援を大切にしています。これまで長期療養患者への丁寧な関わりを積み重ねてきましたが、近年ではパーキンソン病を対象とした短期集中リハビリテーション入院も増加しており、在宅復帰に向けた支援にも力を入れています。



教育体制・学術活動

一般的な業務内容については、PT・OTと共通の教育プログラムに基づき指導を行っています。ST診療においては、経験豊富な先輩スタッフが適宜助言・指導を行い、安心して学べる体制を整えています。また、少人数部門ならではのコミュニケーションの取りやすさを活かし、意見や思いを伝えやすい雰囲気づくりを大切にしています。

学会発表:令和7年度_0件

講師:2件:難病医療従事者研修、重度訪問介護従事者研修

日本言語聴覚学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本神経摂食嚥下・栄養学会等の各種学術集会上に積極的に参加しています。

多職種連携

脳神経内科や呼吸器内科をはじめ、退院前カンファレンスなど各種カンファレンスに参加し、多職種との情報共有を大切にしています。また、NSTの一員として医師・看護師・管理栄養士らと協働しています。摂食嚥下分野では、摂食嚥下認定看護師と口腔ケアアウンドを行うほか、嚥下造影検査でも多職種と連携した評価・支援を行っています。

先輩からのメッセージ

他医療機関から国立病院機構松江医療センターに入職しました。当院では呼吸器疾患や神経難病の患者さんが多く、今までリハビリを行ってきた患者さんとは対象疾患が異なるため最初は戸惑うことも多かったです。それでも経験豊かな先輩方に相談、指導に乗っていただきながら日々切磋琢磨し、一新人として新たな一歩を踏み出し始めたところです。



対象病期

高度急性期

急性期



回復期



長期療養



対象疾患



脳血管



運動器



呼吸器



心臓



がん



神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 県西部唯一の三次救急対応
- 2 急性期から在宅復帰まで支援
- 3 幅広い疾患を対象にリハビリ提供

県西部唯一の三次救急医療機関として、急性期から在宅復帰まで幅広く支援する地域の中核病院です。急性期・回復期リハ・地域包括ケア・緩和ケア病棟を備え、脳血管・心大血管・運動器・呼吸器疾患やがん患者など、幅広い疾患を対象にリハビリ提供しています。

リハビリスタッフ



PT 19名



OT 13名



ST 6名

「医療を通じて“地域で生きる”を支援する」という理念のもと、急性期から回復期、地域包括、緩和ケアまで幅広く対応しています。多様な経験を積める環境の中で、人材育成にも力を入れ、学びと成長を支援する職場づくりを進めています。（職場長より）

📍 アクセス

〒697-8511

島根県浜田市浅井町777-12



0855-28-7098

(リハビリテーション室)



リハビリテーション科 理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

島根県西部唯一の三次救急指定病院として、急性期医療を中心に、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟を備える地域の中核病院です。当院には、ST4名が勤務しています。脳血管疾患をはじめ、呼吸器・外科・内科疾患など幅広い症例に対応しており、高次脳機能障害やコミュニケーション障害、嚥下障害など多様な症状に対するリハビリテーションを経験できます。



教育体制・学術活動

新人教育には科全体で力を入れて取り組んでおり、プリセプター制度を導入した新人教育プログラムを実施しています。院内外の勉強会にも参加しやすい環境を整え、スタッフ一人ひとりが自己研鑽に励みながら、専門性の向上を目指しています。

認定資格:NST専門療法士臨床実施修練 1名

がんのリハビリテーション研修 3名

附属の看護学校で講師として講義を行っています

多職種連携

栄養サポートチーム（NST）に参加し、毎週多職種で回診を行っています。また、リハビリテーション医によるVF・VEも実施しており、より専門的で質の高いアプローチを目指しています。

先輩からのメッセージ

当院へ配属され、急性期～回復期を経験し急性期では日々症状が変わっていく中で評価/訓練やリスク管理の大切さを学び、回復期では患者さんと長く関わることで日々のリハビリの重要性を感じ、在宅復帰などに向けた支援の大切さを学んでいます。当初は業務をこなしていけるか不安もありましたが、先輩方はじめ他職種のスタッフからアドバイスを頂き、業務に励むことができています。大変なこともあります。当院はスタッフ同士の距離も近く、困ったときは自然と声をかけあえるあたたかい職場です。（入職4年目）





岡山医療センター

対象病期

高度急性期✓

急性期



回復期

長期療養



対象疾患



脳血管✓



運動器✓



呼吸器✓



心臓✓



がん✓



神経難病✓

重症心身障害



発達障害✓

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 入院直後から行う早期リハビリ介入
- 2 多くの疾患に対応する急性期医療体制
- 3 多職種連携による包括的支援

当院は平均在院日数約10.5日の急性期病院です。整形外科・循環器・脳血管・新生児・呼吸器・がんなど幅広い疾患に対応し、入院直後や術後当日から早期介入を実施しています。多職種と連携し、包括的なリハビリテーションを提供しています。

リハビリストッフ



PT23名



OT 8名



ST 3名

当院は平均在院日数の短縮を目指し、早期かつ効果的なリハビリ介入に注力しています。また、新人から役職者まで幅広い世代に対する教育・指導体制を構築しており、働きがいのある職場づくりに努めています。（職場長より）

アクセス

〒701-1192

岡山県岡山市北区田益1711-1

☎ 086-294-9911（代）

リハビリテーション科
理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当院の言語聴覚療法では、成人・小児・新生児領域の患者さんを対象にリハビリテーションを提供しています。脳血管疾患、神経難病、呼吸器疾患、がんなどにより、言語機能や摂食嚥下機能に障害を呈した患者さんに対し、評価・訓練を実施しています。失語症を含む高次脳機能障害、構音障害、音声障害に対する支援に加え、安全な経口摂取の継続を目的として、医師・看護師と連携し、嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査、嚥下機能訓練にも積極的に取り組んでいます。



教育体制・学術活動

新人教育では、先輩スタッフへ患者さんの評価や訓練内容について気軽に相談できる体制を整えています。また、医療安全研修や感染管理研修など、医療職として必要な知識を習得するための研修会も定期的に開催されています。

学会発表:令和7年度_0件

院内の勉強会などで、嚥下リハビリテーションの講師をしています。

多職種連携

診療科ごとに定期カンファレンスを実施し、多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカー等）と情報共有に努めています。患者さんに安全な食事環境を提供するために、医師・看護師との連携を積極的に行っています。

先輩からのメッセージ

発症直後の、日々状態が変化していく患者さんに関われることが急性期ならではの醍醐味です。介入当初コミュニケーションが難しく、口から食べることが難しかった患者さんへリハビリテーションを提供し、回復していく過程に携われることにやりがいを感じます。また、多職種と日々の情報共有やカンファレンスで連携を図り、患者さんに最良の支援ができるように心掛けています。





南岡山医療センター

対象病期

高度急性期

急性期 ✓

回復期

長期療養 ✓



対象疾患



脳血管 ✓



運動器 ✓

呼吸器



心臓 ✓

がん



神経難病 ✓



重症心身障害 ✓



発達障害 ✓

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 多様な専門病棟を備える
- 2 急性期と維持期に対応
- 3 働きやすさと成長を支援

神経・筋疾患病棟、重症心身障害児者病棟、急性期病棟を有し、入院・外来患者さんの急性期・維持期に介入しています。子育て・介護世代を含む多様な職員背景に配慮し、ワークライフバランスを支援するとともに、キャリアアップも後押ししています。

リハビリスタッフ



PT 11名



OT 9名



ST 4名

新卒から25年目まで幅広い経験年数の職員が在籍し、助言を受けながら安心して働ける環境です。連携を大切にし、ハラスメント防止やメンタルサポートにも取り組みながら、「働きやすく働きがいのある職場」を目指しています
(職場長より)

アクセス

〒701-0304

岡山県都窪郡早島町早島4066

☎ 086-482-1121 (代)



リハビリテーション科

理学療法士長・作業療法士長まで



みなみ君

言語聴覚部門

部門紹介

言語聴覚療法部門では、神経・筋疾患、呼吸器疾患、重症心身障害、小児発達障害など幅広い領域に対して評価・訓練を実施しています。入院では摂食嚥下障害への対応を中心に、外来では発達障害を抱える小児患者さんに対し、言語発達やコミュニケーション支援に取り組んでいます。また、誤嚥性肺炎予防を目的として、医師・看護師・栄養士らと連携した多職種チームによる嚥下外来も実施しています



教育体制・学術活動

当科規定の新人教育プログラムに基づき、新採用職員への指導を実施しています。また、部門内勉強会に加え、院外研修や勉強会の情報提供も行い、自己研鑽やスキルアップの機会を積極的に支援しています。

その他:近隣の保健所が主催する、在宅の難病患者さん対象の相談会への参加

多職種連携

毎月、内科・脳神経内科・小児科などで実施される多職種カンファレンスに参加しています。また、NSTカンファレンス・ラウンドや摂食嚥下サポートチームにも定期的に参加しており、医師・看護師・栄養士らと連携しながら、嚥下外来での評価や訓練も実施しています。

先輩からのメッセージ

当院は重症心身症がい、筋ジストロフィーを含む神経・筋難病の患者さんが多く入院されています。患者さんの病状に加え、ご本人・ご家族の思いに寄り添ったりハビリテーションを行うことが必要となる場面が多くあります。患者さんやご家族にとって何が最善なのか悩み模索する日々です。臨床での悩みや疑問にも親身に寄り添ってくださり的確なアドバイスをくださる先輩方や上司がいます。また、入職後の研修なども充実しており、スキルアップ体制が整っていることも魅力の一つとなっています。





国立療養所 長島愛生園

対象病期

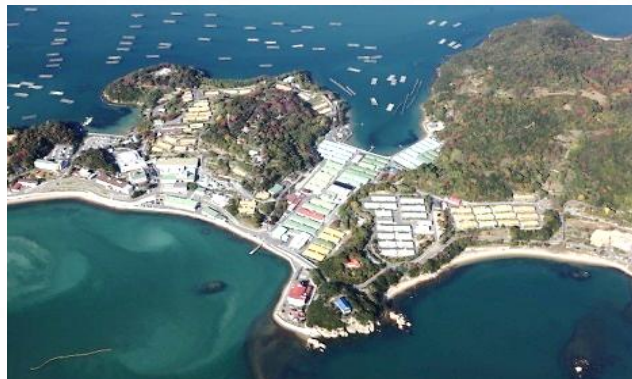
高度急性期

急性期

回復期



長期療養



対象疾患

脳血管



運動器



呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害



精神科



ハンセン後遺症



当院の特徴

- 1 日本初の国立療養所として開設
- 2 ハンセン病療養の歴史を継承
- 3 療養施設入所者に寄り添う生活支援

当園は1930（昭和5）年、初の国立療養所として開設し、当時、ハンセン病は感染症であることが分かっていたが有効な治療法がなく、国の政策として隔離が行われました。現在、入所者の皆様はハンセン病そのものは治癒していますが、高齢化や後遺症、今なお残る偏見や差別により社会復帰が困難なため、当園で生活されています

アクセス

〒701-4592

岡山県瀬戸内市邑久町虫明6539

☎ 0869-25-0321（代）

理学作業療法室
運動療法主任まで



リハビリスタッフ



PT 4名



OT 2名



ST 1名

当園では「入所者ファースト」「職員ファースト」をモットーに、全職員が一丸となって日々の業務に取り組んでいます。入所者の皆様と接する中で、その社会的背景を理解し、ハンセン病の歴史について深く考える機会が得られると思います。また、ワークライフバランスも重視し、「この職場で、そしてNHOで働きたい」と思える職場づくりを目指しています。ぜひ一度、当園へお越しください。皆様のお越しをお待ちしております。（職場長より）

言語聴覚部門

部門紹介

言語聴覚療法では、他の病院や施設と同様に、ハンセン病の後遺症に加え、入所者の超高齢化に伴い、摂食嚥下障害の評価・訓練の必要性が高まっています。そのため、耳鼻咽喉科医師をはじめとする多職種と連携し、摂食嚥下障害への対応を中心に取り組んでいます。



教育体制・学術活動

園内外の勉強会や研修会への参加に加え、施設内研修の講師や部署内での症例検討会、リハビリテーションカンファレンスも随時実施しています。また、摂食嚥下に関しては、多職種の先輩から指導を受けることができます。

学会発表:令和7年度_0件

当園ではNST活動を月に2回、摂食嚥下障害支援チーム(SST)活動を週に1回参加しています。

多職種連携

リハビリテーション部門のほか、NST（栄養サポートチーム）やSST（摂食嚥下サポートチーム）とも連携し、耳鼻咽喉科医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、義肢装具士、理学療法士・作業療法士と随時情報共有を行いながら活動しています。

先輩からのメッセージ

当園は入所者ファースト、職員もファーストを掲げており、療法士はそれぞれ課題を持って業務に取り組んでいます。現在のところ、当園には言語聴覚士は私1人の状態ですが、隣接する邑久光明園との交流もあることから、摂食嚥下のチーム医療についても言語聴覚士同士での情報共有を行えています。どうぞよろしくお願い致します。



国立療養所 邑久光明園

対象病期

高度急性期

急性期

回復期



長期療養



対象疾患



脳血管



運動器



呼吸器



心臓



がん



神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症



当院の特徴

- ① 瀬戸内の温暖な気候と豊かな自然環境
- ② ハンセン病後遺症への専門的リハビリ
- ③ 入所者を支える介護予防リハビリ

国立療養所邑久光明園は、全国13か所の国立ハンセン病療養所の一つで、岡山市の南東約35kmに位置する長島にあります。温暖な瀬戸内海の気候と自然に恵まれた環境の中、入所者様の多くはハンセン病の後遺症を抱えながら生活されており、平均年齢は約90歳です。そのため、リハビリテーションや介護予防の充実に取り組んでいます。

リハビリスタッフ



PT 3名



OT 2名



ST 1名

入所者の皆様が充実した日々を送れるよう、多職種が連携して支援しています。また、ワークライフバランスを推進し、働きやすい職場環境を整備しています。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・義肢装具士が協力し、より良い生活の実現に努めています。

(職場長より)

アクセス

〒701-4593 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6253

☎ 0869-25-0011 (代)

リハビリテーション室
副理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当園の言語聴覚士は、主に摂食嚥下障害の評価・訓練を行っています。ハンセン病の後遺症に加え、高齢化に伴うサルコペニアやフレイルの影響により、食べることが難しくなる方が増えています。そこで、多職種で構成する摂食嚥下障害対策委員会（SST）の一員として、入所者の皆様の楽しみである「食べる」を支援しています。また、歯科医師や歯科衛生士と連携し、摂食嚥下機能の維持・向上に努めています。



教育体制・学術活動

入職後には3日間の新採用者研修があり、ハンセン病や療養所の歴史について、入所者の方から直接お話を伺うことができます。また、歯科医師を中心とした摂食嚥下障害対策委員会（SST）には理学療法士・作業療法士も参加しており、多職種で連携しながら「食べる」を支援しています。日々の情報交換やカンファレンスを通じて、口腔や摂食嚥下に関する知識を深めることができるほか、園内外の研修会にも参加しやすい環境が整っています。

学会発表:令和7年度_0件

多職種連携

SSTのほかにも、人生サポートチーム（JST）、栄養サポート・創傷対策委員会（NST）、医療安全管理委員会、感染対策委員会など、さまざまなチームが活動しています。STが密接に関わるSSTでは、チームで食事場面の評価を行い、多職種の視点から改善点を検討しています。情報共有や連携を密に行うことで、入所者の皆様一人ひとりに対して迅速かつ適切な対応ができる体制を整えています。

先輩からのメッセージ

入所者の皆様がいずれも90歳前後の超高齢であることから、機能の維持・改善のみでなく、生活の場において、いかにその方のニーズを尊重し、QOLを維持するかを考えなければなりません。これが難しくもあり、楽しくもあります。毎年光明園では、SSTとして、お正月に餅を食べたい入所者の皆様の摂食嚥下評価を行っています。病院で餅を食べるのはほぼ不可能ですが、チームで動くことで、こうした難問にもチャレンジできています。





呉医療センター

対象病期

高度急性期✓

急性期



回復期

長期療養



対象疾患



脳血管



運動器



呼吸器



心臓



がん



神経難病



重症心身障害

発達障害



精神科



ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 645床を有する大規模病院
- 2 地域医療を支える中核施設
- 3 高度急性期医療を幅広く提供

当院は、39診療科・645床を有する国立病院機構の大規模病院の一つです。「地域がん診療連携拠点病院」「三次救命救急センター」「地域周産期母子医療センター」「災害拠点病院」「地域医療支援病院」などの機能を担い、地域医療の中核を担う高度急性期医療機関として、専門性の高い医療を提供しています。

リハビリスタッフ



PT21名



OT13名



ST 6名

相互尊重のコミュニケーションを大切にし、働きやすい職場づくりを推進しています。約40名のスタッフがそれぞれの役割を担い、勉強会や症例検討、学術活動を通して臨床力と組織力の向上に努めています。（職場長より）

アクセス

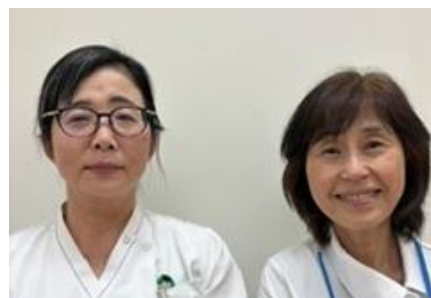
〒737-0023

広島県呉市青山町3番1号

☎ 0823-22-3111（代）

リハビリテーション科

理学療法士長・作業療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

高度急性期の脳血管疾患・がん・摂食嚥下障害などの患者さんを中心に言語聴覚療法・摂食機能療法等を実施しています。特に摂食嚥下障害に対しては、院内に「摂食嚥下支援委員会」が設置され、耳鼻科・脳神経内科医師、薬剤師、管理栄養士、摂食嚥下認定看護師、言語聴覚士などからなる「摂食嚥下支援チーム」が形成され、嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査等による評価のもと、毎週定期的に合同カンファレンスを行い、詳細に・他覚的に・継続的な介入を行っています。



教育体制・学術活動

新人に対しては、当部門新人教育プログラム・スケジュールに基づき、プリセプターを中心としたサポート体制のもと、無理のない計画的な指導教育を行っています。

科内でも教育・学術部による勉強会・文献抄読会・症例発表会があります。また、院内では毎年多数の各種研修が実施され、充実した自己研鑽の場が提供されています。

学会・研究会発表:令和7年度_0件

国立病院総合医学会での学会発表や、院内での症例発表を行っています。

多職種連携

入院から退院までの間に脳神経外科・内科、リハビリテーション科、NST、摂食嚥下支援チームなどを中心に、PT・OTに加えて、多職種（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・摂食嚥下認定看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）からなるカンファレンスが定期的に行われています。

先輩からのメッセージ

入職2年目になります。当院は、高度急性期病院です。脳血管疾患をはじめ、呼吸器疾患や神経難病、がんなど幅広い疾患の患者さんに携わることができます。日々専門的な知識や技術を深めることができ自身のスキルアップも目指すことができます。PT・OTとも連携を取りやすくチームアプローチの重要性を学ぶことができます。





福山医療センター

対象病期

高度急性期

急性期



回復期

長期療養



対象疾患



脳血管



運動器



呼吸器



心臓



がん



神経難病

重症心身障害



発達障害



精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 広島東部と岡山西部を支える中核病院
- 2 苦痛軽減を重視した先進的な医療体制
- 3 チーム医療と臨床研究を推進

広島県東部医療圏の中核病院として、岡山県西部地域の医療も担っています。「苦痛の少ない医療」の実践を目指し、内視鏡・腹腔鏡を用いた検査・治療・手術を推進。さらに、緩和ケアチームをはじめ多職種が連携するチーム医療を充実させています。また、治療法開発に向けた臨床研究や治験にも積極的に取り組んでいます。

リハビリスタッフ



PT14名



OT10名



ST 3名

忙しい中でも、真摯に患者さんと向き合い、前向きに業務へ取り組んでいます。教育・発表の機会も多く、学びながら成長できる環境です。職場の連携も良く、助け合いながら働けることが当科の魅力です。一緒に新たな一步を踏み出しましょう。（職場長より）

アクセス

〒720-8520

広島県福山市沖野上町4丁目14-17



084-922-0001（代）



リハビリテーション科

理学療法士長・作業療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当院の言語聴覚士は、外科・整形外科・呼吸器外科・頭頸部外科の周術期患者さんや、COPD、間質性肺炎、肺がん、誤嚥性肺炎などによる摂食嚥下機能障害の患者さんを対象に、評価・訓練を行っています。また、放射線治療や化学療法に伴う経口摂取困難への支援も実施しています。耳鼻咽喉科医と連携し、VE・VFによる評価を通じて安全な経口摂取方法を提案し、QOL向上を支援しています。さらに、新生児の哺乳支援や小児の摂食嚥下障害、構音障害にも対応しています。



教育体制・学術活動

新人教育では、当科規定の教育プログラムに基づき、新採用者一人ひとりに指導係を配置し、助言や指導を行いながら段階的に患者担当を進めています。また、摂食嚥下サポートチームをはじめとする多職種チームに参加し、専門的な知識や視点を学ぶことができます。院内勉強会や外部講師によるオープンカンファレンスも充実しており、幅広い分野で自己研鑽できる環境が整っています。

学会発表:令和7年度_0件

市主催の医学祭や県士会などへの講師派遣実績があります。当院では文献検索や文献取り寄せが可能で、統計ソフトも保有しているため、研究や学会発表に取り組みやすい環境です。発表時には先輩から指導を受けることもできます。

多職種連携

食事に関しては、医師・看護師・管理栄養士などの多職種でカンファレンスを行い、患者さんに適した食事形態や栄養管理を検討しています。また、入院中は医師・看護師・医療ソーシャルワーカーらと定期的に情報共有を行い、退院前には在宅支援に関わる職種とも連携し、安心して在宅生活へ移行できるよう支援しています。

先輩からのメッセージ

当院では新生児から高齢者まで、あらゆる世代の幅広い疾患の患者さんに携わることができます。言語聴覚部門は2011年に開設され、ニーズは年々増加しています。日々、新たな発見がたくさんある職場です。





広島西医療センター

対象病期

高度急性期

急性期 ✓

回復期

長期療養 ✓



あなたのために、地域と共に
信頼を、すべての人に



対象疾患



脳血管 ✓



運動器 ✓



呼吸器 ✓

心臓



がん ✓



神経難病 ✓



重症心身障害 ✓

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 急性期から療養期まで幅広く対応
- 2 神経・筋疾患や重症心身障がいに対応
- 3 外来を含む多様なリハビリを経験

急性期病床に加え、筋ジストロフィーやALSなどの神経・筋疾患、重症心身障がい児（者）の療養病棟を有する「ケアミックス型」の病院です。幅広い領域のリハビリテーションを経験でき、外来リハビリテーションにも携わることができます。

リハビリスタッフ



PT 14名



OT 8名



ST 4名

神経・筋疾患への対応には日々の学びが欠かせません。急性期リハビリテーションも含め、患者さん一人ひとりに真摯に向き合い、ニーズに応えられるよう努力を重ねています。「患者さんとともに」成長し続けるリハビリテーション科を目指しています。

（職場長より）

アクセス

〒739-0696

広島県大竹市玖波4丁目1番1号



0827-57-7151（代）

リハビリテーション科

理学療法士長・作業療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

パーキンソン病、ALS、筋ジストロフィーなどの神経筋疾患をはじめ、重症心身障がい児・者、呼吸器疾患、がんなど、幅広い対象に対してリハビリテーションを実施しています。言語聴覚療法では、摂食嚥下、音声・構音、高次脳機能の各領域において、個別性を重視したリハビリテーションを提供しており、多職種と連携しながら取り組んでいます。また、当院ではパーキンソン病に対する短期集中リハビリテーション入院（ブラッシュアップリハビリテーション：ブラリハ）を実施しており、ADLおよびQOLの向上を目指した支援を行っています。



教育体制・学術活動

年間指導プログラムに基づき、言語聴覚部門全体で新人教育を行っています。まずは訓練場面の見学から始め、その後は少人数の症例を担当します。定期的な面談を通して理解度や不安を確認しながら、段階的な技術習得を支援しています。また、言語聴覚士に限らず、リハビリテーション科全体で報告・相談・指導を受けやすい環境を整えています。さらに、科内勉強会や症例検討会も実施しています。

学会発表: 令和7年度 0件

院内研修として、看護師を対象に摂食嚥下の基礎に関する講義を担当しています

多職種連携

院内の委員会への参加や、多職種と協働しての研修やラウンド、カンファレンス等に参加しています。

先輩からのメッセージ

当院では、さまざまな分野・病期のリハビリテーションを実施しています。そのため、評価の解釈や訓練項目の選定に悩むこともありますが、先輩や多職種へ相談しやすく、協力しながらリハビリテーションを提供できる環境です。

また、科内では定期的に勉強会を実施しており、他領域の知識や新たな知見を学ぶことができ、自己研鑽にもつながっています。





東広島医療センター

対象病期

高度急性期

急性期



回復期

長期療養



対象疾患



脳血管



運動器



呼吸器



心臓



がん



神経難病



重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 急性期医療を担う地域中核病院
- 2 高度専門医療とチーム医療を実践
- 3 研究・教育・情報発信を推進

広島中央医療圏の急性期中核病院として、科学的根拠に基づく安心・安全な医療を提供しています。がん、循環器疾患、呼吸器疾患、内分泌・代謝性疾患を中心とした政策医療を担っており、ナショナルセンター等との連携のもと、臨床研究や教育研修、情報発信にも取り組んでいます。地域医療の発展と人材育成に貢献しています。

リハビリスタッフ



PT12名



OT 7名



ST 3名

入院直後や手術前後からリハビリテーションを開始し、全診療科の疾患に対応しています。特に脳血管疾患や神経難病の患者さんが多く、早期離床・早期回復を目指した支援を行っています。土日祝日も当日処方に対応できる体制を取っています。（職場長より）

アクセス

〒739-0041

広島県東広島市西条町寺家513

☎ 082-423-2176 (代)

リハビリテーション科
理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当院では、入院患者さんに対し急性期リハビリテーションを実施しています。脳神経外科・脳神経内科を有しており、神経難病を含む脳血管疾患患者さんが多く、失語症をはじめとする高次脳機能障害や構音障害への関わりも豊富です。脳血管疾患や呼吸器疾患に加え、幅広い疾患の嚥下障害にも対応しています。嚥下サポートチームの一員として、嚥下機能検査から訓練プログラムの立案、食形態の選定まで一貫して携わっています。また、純音聴力検査や語音聴力検査、インピーダンスオーディオメトリーなどの聴覚検査も担当しています。



教育体制・学術活動

科内で定期的に勉強会を開催しており、新しい知識の習得や担当患者さんの病態理解を深めることができます。また、有料文献にアクセス可能な端末を備えており、疑問が生じた際には論文を閲覧しやすい環境が整っています。嚥下分野では、耳鼻咽喉科医師や摂食・嚥下障害看護認定看護師などの関係職種とディスカッションを行い、障害に対する総合的な理解を深めています。

学会発表:令和7年度_0件

多職種連携

SST（嚥下サポートチーム）のメンバーとして、耳鼻咽喉科医師をはじめとする多職種とともに病棟回診やカンファレンスを実施し、患者さんの経口摂取を支援しています。

NST（栄養サポートチーム）のメンバーとして、栄養不良患者さんの栄養管理を嚥下の側面からサポートしています。

先輩からのメッセージ

当院では急性期から様々な疾患と関われるため、より豊富な経験と知識を得る事が出来ます。言語聴覚部門はスタッフ数が少ないため一人が受け持つ患者さんは多めですが、その分様々な疾患、障害を経験することができます。

カンファレンスも定期的に開催されており多職種との連携も取りやすい環境が整っています。





賀茂精神医療センター

対象病期

高度急性期

急性期



回復期



長期療養



対象疾患

脳血管

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病



重症心身障害

発達障害



精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- ① 中四グループ最大規模の精神科病院
- ② 精神科救急・災害医療の中核
- ③ 多職種連携によるチーム医療

当院は、精神疾患や重症心身障害の政策医療に注力し、精神科作業療法やデイケア、障害児（者）リハビリテーションを実施しています。精神科救急、医療観察法病棟、DPAT派遣、人材育成などの中核を担い、多職種連携によりチーム医療を展開しています。

リハビリスタッフ



PT 2名



OT 9名



ST - 名

メンタルヘルス領域は今後ますます重要となる分野で、対人支援の基盤でもあります。患者さんの「その人らしい生活」を一緒に探すのと同時に、職員のワークライフバランスも大切にしています。
(職場長より)

アクセス

〒739-2621

広島県東広島市黒瀬町南方92番地

☎ 0823-82-3000 (代)

リハビリテーション科
作業療法士長まで





関門医療センター

対象病期

高度急性期✓

急性期

✓

回復期

✓

長期療養



対象疾患



脳血管

✓



運動器

✓



呼吸器

✓



心臓

✓



がん

✓



神経難病

✓

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 救急から在宅復帰まで切れ目なく支援
- 2 地域医療を支える急性期病院
- 3 高度救急医療を提供・救急科ER24

下関市から山口県北西部を医療圏とする救急指定病院です。病床数は400床（医療法）で、救命救急センター・急性期一般・地域包括ケア病棟を有し、救命医療から在宅復帰まで一貫した医療サービスを提供しています。私たちは、高齢者救急への早期介入、多職種連携を推進するとともに、地域に求められる人材育成に取り組んでいます。

リハビリスタッフ



PT 16名



OT 11名



ST 3名

若手職員はジョブローテーションを通じて多くの先輩から指導を受けながら経験を積み、転入職員にはキャリアや専門性に応じた業務調整を行っています。One-Team精神を大切にし、互いに支え合いながら安心して働ける職場環境を目指しています。

（職場長より）

アクセス

〒752-8510

山口県下関市長府外浦町1-1

☎ 083-241-1199（代）

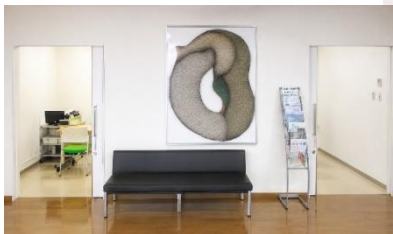
リハビリテーション科
理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

「超急性期」から「地域包括ケア」まで、地域社会に貢献できるリハビリテーションサービスの提供を目指し、365日体制で急性期リハビリテーション医療を実践しています。摂食機能療法ではVE検査を実施しており、多職種と連携しながら評価・治療を進めることができます。言語療法では、脳血管疾患をはじめ、神経難病や廃用症候群など、幅広い疾患・病期の患者さんに関わることができます。



教育体制・学術活動

新人教育では、新人スタッフ1名につき指導者を1名配置しています。育成状況は新人教育部会で共有し、継続的な指導・助言を行っています。また、理学療法・作業療法の症例検討会や勉強会にも参加し、知識や技術の向上と共通認識の醸成を図っています。

学会発表:令和7年度_0件

各種関連学会での学術発表を積極的に行っており、がんのリハビリテーション研修の修了や各種資格取得に関する支援も行っています。

多職種連携

診療科ごとに定期的なカンファレンスを実施しています。また、栄養サポートチーム（NST）では、入院患者さんの栄養状態を横断的に評価し、必要な栄養量の確保や食事形態の調整などについて、多職種で取り組んでいます。

先輩からのメッセージ

急性期病院ではありますが、救急受け入れだけでなく、地域包括ケア病棟を介した在宅復帰まで、幅広い範囲の業務があります。

高齢者の多い地域でもあり、摂食嚥下障害の患者さんも多く、多職種で連携したアプローチ方法が重要な役割を果たしていると思います。

仕事は先輩から丁寧に指導いただけますし、臨床経験を積みながら、将来のキャリア形成への取り組みも実施しやすい環境となっています。



対象病期

高度急性期

急性期 ✓

回復期

長期療養 ✓



対象疾患

脳血管

運動器



呼吸器 ✓

心臓



がん ✓

神経難病



重症心身障害 ✓

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 がん・呼吸器診療の専門病院
- 2 重症心身障害児者を支える医療
- 3 グループの中でも、特色ある診療体制

「がん」「呼吸器」「重症心身障害（重心）」を診療の三本柱としています。がん・呼吸器疾患の専門病院として高度で専門的な医療を提供するとともに、重症心身障害児者に対してきめ細やかな医療と療育を実践しています。中国四国グループでも特色ある診療を行う数少ない病院です。

リハビリスタッフ



PT 9名



OT 5名



ST 3名

当院は呼吸器・がん・重症心身障害（重心）に特化した専門施設です。多職種が連携しながら患者さんを支援しており、相談しやすい職場環境が整っています。また、子育て世代や男性職員の育児休暇取得にも配慮しています。
(職場長より)

アクセス

〒755-0241

山口県宇部市東岐波685番地

☎ 0836-58-2300

リハビリテーション科
副理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当院の言語療法部門では、呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎、肺がん、転移性脳腫瘍など）や重症心身障害児（者）を対象に、摂食嚥下障害、高次脳機能障害、言語障害に対するリハビリテーションを行っています。一般病棟では周術期から維持期、終末期まで幅広い病期に介入しています。また、重症心身障害児（者）病棟では、医師・看護師・保育士など多職種と連携し、ご本人が持つ機能を最大限に活かしながら、QOL（生活の質）の維持・向上を目指した支援を行っています。



教育体制・学術活動

新人教育は、当科の新人教育プログラムに基づいて実施しています。また、担当指導者を配置し、一人ひとりの習熟度に応じて必要な指導や助言を行っています。院内研修や各種勉強会も充実しており、継続的に知識や技術を学べる環境が整っています。

学会発表:令和7年度_0件

多職種連携

定期的に多職種によるリハビリテーションカンファレンスを実施しています。日々の訓練についても、主治医、看護部、療育部門、栄養部門などと適宜情報共有を行いながら訓練計画を立案しています。重症心身障害児（者）病棟では、摂食嚥下時の姿勢調整や車椅子シーティングなどについて、多職種で協議し情報を共有する機会が多く、必要に応じて関係スタッフが集まり検討を行っています。また、退院前カンファレンスを通じて地域の医療・介護スタッフと情報共有を行い、円滑な在宅復帰を支援しています。

先輩からのメッセージ

近年、呼吸器疾患患者へのST介入に必要性が増し、オーダーも増えていきます。当院は呼吸器とがんの専門病院でもあり、知識と経験を身に付けることができます。一般病棟では周術期～終末期と幅広い時期の患者さんと接する機会があります。加えて重症心身障害者（児）のリハビリ介入もあるため、一般とは別の視点で摂食嚥下障害や認知機能を学ぶ機会に恵まれます。より広く柔軟なリハビリ視点を経験できる環境です。





岩国医療センター

対象病期

高度急性期 ✓

急性期 ✓

回復期

長期療養



対象疾患



脳血管 ✓



運動器 ✓



呼吸器 ✓



心臓 ✓



がん ✓

神経難病

重症心身障害



発達障害 ✓

精神科

ハンセン病遺言

当院の特徴

- 1 広域を担う中核医療機関
- 2 2・3次救急と災害医療の要
- 3 地域からの信頼と美しい景観

当院は岩国市を中心に広島・島根の一部までをカバーし、約40万人の医療圏を担う唯一の救命救急センターです。2・3次救急や災害医療の中核として機能し、地域の信頼を支えています。高台から望む瀬戸内海の景色も魅力です。

リハビリスタッフ



PT 23 名



OT 9 名



ST 4 名

リハビリテーション科への信頼が厚く、専門職として力を発揮できる環境です。子育て中の職員も多く在籍。男性の育休取得など、ワークライフバランス推進に取り組んでいます。（職場長より）

アクセス

〒740-8510

山口県岩国市愛宕町1丁目1-1



0827-34-1000 (代)



リハビリテーション科

理学療法士長・作業療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

幅広いコミュニケーション障害に対し、評価・訓練を行っています。主に脳血管疾患による失語症や構音障害が中心ですが、呼吸器疾患やがんなど多様な症例にも対応しています。小児の言葉の遅れには、家庭や学校生活を見据えた外来リハビリで支援しています。また高齢患者が多く、嚥下障害に対する摂食機能療法のニーズが高く、適切な対応が求められています。



教育体制・学術活動

新人1人に対して指導者1人を配置しています。指導者に加え、先輩セラピストの診療を見学できる機会を設け、学びを深めています。ST業務はリスク管理が求められるため、院内の吸引実技試験制度など、安全に配慮した体制を整えています。科内勉強会は年間計画に沿ってPT・OTと合同で開催し、幅広い視野とスキルの習得を支援しています。

学会発表:令和7年度_0件

多職種連携

言語・コミュニケーションや食事の専門職として意見を求められる場面が多く、患者さんの認知機能やコミュニケーション能力に応じた支援や工夫を提案しています。また、主治医・栄養士・摂食嚥下認定看護師と連携し、患者さんの食形態や栄養状態の改善にも深く関わっています。

先輩からのメッセージ

当院は急性期の総合病院であり、小児から成人まで幅広い年代と多様な疾患に対して臨床経験を積むことができます。さまざまな困難を抱える患者さんとの関わりの中で悩むこともありますが、先輩STのヒアリングに加え、他職種にも相談しやすい環境が整っています。先輩や同僚に支えられながら、言語聴覚士として成長できる職場です。
(卒後3年目職員)





柳井医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

長期療養



対象疾患



脳血管



運動器



呼吸器



心臓

がん



神経難病



重症心身障害



発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 神経難病に特化した専門医療
- 2 重症心身障害児者の中核病院
- 3 専門的外科治療および人工透析

当院は、東に瀬戸内のハワイと呼ばれる周防大島、西に大星山を望む自然豊かな環境にあります。神経難病（筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、多発性硬化症等）や重症心身障害児（者）の専門医療施設として、山口県全域と広島県西部の中核的役割を担い、一般外科、肛門疾患、大腸・直腸癌治療、入院透析にも対応しています。

リハビリスタッフ



PT 7名



OT 5名



ST 3名

患者さん一人ひとりに寄り添った安心・安全な医療を提供しています。瀬戸内海を望む恵まれた環境の中で、臨床経験を積み、ワークライフバランスを充実させ、みんなで共に成長していける職場を目指しています。（職場長より）

アクセス

〒742-1352

山口県柳井市伊保庄95

☎ 0820-27-0211（代）

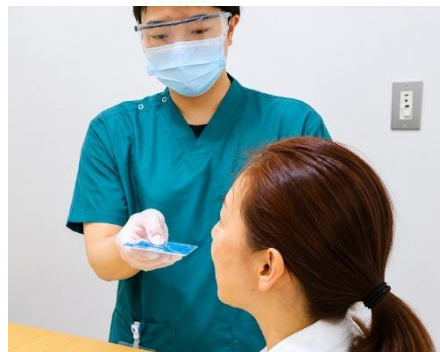
リハビリテーション科
理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当院の言語聴覚療法では、脳神経・筋疾患や重症心身障害児（者）を中心に、脳卒中などの脳血管疾患、腎疾患、循環器疾患など幅広い患者さんを対象に支援を行っています。一人ひとりに寄り添いながら能力を最大限に引き出し、より良いコミュニケーションにつながるようサポートしています。また、医師の指示のもと、摂食嚥下障害に対するスクリーニングや嚥下造影検査を実施し、適切な栄養手段の選択にも取り組んでいます。



教育体制・学術活動

新人スタッフ1名に対して指導者1名を配置し、丁寧な指導や助言を行っています。リハビリテーション科全体でも、実際の臨床業務を円滑に行えるよう支援体制を整えています。また、研修会や勉強会の内容をスタッフ間で積極的に共有しており、自己研鑽しやすい環境づくりに努めています。

学会発表:令和7年度_3件「ノド越し重視！？喉頭気管分離術 など」

院内発表:令和7年度_2件「VFによる嚥下評価について など」

多職種連携

各診療部のカンファレンスに参加し、情報共有に努めています。また、栄養サポートチーム（NST）や摂食嚥下委員会にも参加して、多職種と連携を図っています。

先輩からのメッセージ

当院は幅広い医療に携わることができ、知識や技術の学びやすい職場です。また、福利厚生も充実しており仕事と家庭の両立がしやすく、ライフステージが変わっても安心して勤めることができる職場です！！



対象病期

高度急性期

急性期 ✓

回復期 ✓

長期療養 ✓



対象疾患



脳血管 ✓



運動器 ✓



呼吸器 ✓



心臓 ✓



がん ✓

神経難病



重症心身障害 ✓

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 結核・重心医療を担う病院
- 2 地域包括ケアで暮らしを支援
- 3 やさしい笑顔、あたたかな医療

リハビリスタッフ



PT 5名



OT 2名



ST 2名

徳島県東部を診療圏とし、政策医療である結核・重症心身障害児（者）病棟のほか、一般病棟（地域包括ケア病棟を含む）を有しています。「やさしい笑顔で、あたたかな医療を提供します」を病院理念に掲げ、地域に貢献する医療を実践しています。

「やさしい笑顔で、あたたかな医療を提供します」に基づき、患者さん一人ひとりに寄り添ったリハビリテーションを提供しています。多職種と連携しながら、患者さんの思いや目標を大切に支援しています。（職場長より）

アクセス

〒779-0193

徳島県板野郡板野町大寺大向北 1-1

☎ 088-672-1171（代）

リハビリテーション科
副理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

令和3年度より言語聴覚士が配置されています。当院では、主に摂食嚥下分野へのニーズが高く、食事評価・指導や訓練の依頼が多く寄せられています。嚥下造影検査（VF）などの標準嚥下機能検査も導入しており、音声障害、構音障害、認知機能障害への対応も行っています。対象は、呼吸器疾患（結核・COPD・間質性肺炎・誤嚥性肺炎など）、脳血管疾患、外科疾患、重症心身障害児（者）などが中心です。高次脳機能障害や失語症の患者さんへの介入も検討しています。



教育体制・学術活動

毎朝リハビリテーションミーティングを実施し、患者さんの情報共有や相談を行っています。また、月1回の科内勉強会を開催しており、日々の知識・技術向上に努めています。実務では、リハビリテーション医やPT・OTと連携・相談しながら業務を進められる環境が整っています。さらに、グループ内施設での研修や学会・研修会への参加も推奨しており、臨床研究などの学術活動にも積極的に取り組んでいます。

学会発表:令和7年度_0件

院内研修や地域の各種研修会に参加しています。

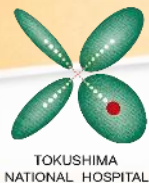
多職種連携

NSTやDOTSカンファレンス（結核）、摂食ラウンド（重症心身障がい児〔者〕）、包括的呼吸リハカンファレンスに参加し、他部門（医師・看護師・ソーシャルワーカー・臨床検査技師・薬剤師・栄養士など）と患者さんの情報共有を行うとともに、ST介入対象者の抽出や啓発を行っています。医師・看護師・放射線技師・栄養士と連携し、嚥下造影検査も実施しています。

先輩からのメッセージ

当院では、呼吸器疾患やがん、内科疾患、重症心身障がい者（児）のリハビリテーションなど対象となる年齢や領域は幅広く経験することができます。リハビリテーション科の雰囲気もアットホームで働きやすい環境です。また、NST委員会や摂食ラウンドなどがあり、多職種との連携も取りやすい環境が整っています。





とくしま医療センター西病院

対象病期

高度急性期

急性期



回復期



長期療養



やさしい笑顔で、あたたかな医療を提供します。

対象疾患



脳血管



運動器



呼吸器



心臓



がん



神経難病



重症心身障害



発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

当院は、神経・筋疾患医療の中心的役割を担う病院として、長年にわたり筋ジストロフィー医療に取り組んできました。先人たちの理念を受け継ぎ、質の高い医療提供を目指しています。

ロボットリハビリテーションを早期から導入し、パーキンソン病に対する「非運動症状に注目した短期集中リハ入院」も実施しています。さらに、スポーツ外傷・障害に対するメディカルリハやアスレチックリハにも力を注いでいます。多様な疾患に対応する知識・技術を学べる環境が整っており、研修・研究支援や学術活動も充実しています。

リハビリスタッフ



PT 9名



OT 5名



ST 3名

政策医療である神経筋疾患に対する医療を中心に提供しています。県内にとどまらず、他県からの紹介も多く、医師や看護師、メディカル部門との連携も充実しています。質の高い医療サービスを提供できるようスタッフ一同努力しています。（職場長より）

アクセス

〒756-8585

徳島県吉野川市鴨島町敷地1354番地

☎ 0883-24-2161 (代)

リハビリテーション科
理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当院は、筋ジストロフィー医療において四国唯一の専門病院です。言語聴覚療法では、筋ジストロフィー、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの神経筋疾患を主な対象としています。摂食嚥下領域では、摂食嚥下認定看護師を含む多職種で構成されたSNST（摂食嚥下栄養サポートチーム）と連携し、食事形態の調整や栄養評価を行っています。成人・小児ともに外来リハビリにも対応しており、発声発語、コミュニケーション、摂食嚥下機能への支援を通して、患者さんの生活を支えています。



教育体制・学術活動

リハビリテーション科全体で新人教育を行っています。入職後は、免許取得まで多職種を含めたリハビリを見学しながら、知識や技術の習得に努めます。その後は少人数から患者さんを担当し、さまざまな疾患に対する訓練の立案・実施を通して経験を積むことができます。また、科内では毎週勉強会を開催しており、新しい手技や研究に触れるなど、学びの機会にも恵まれています。

学会発表:令和7年度_0件

多職種連携

定期的に、多職種（医師、看護師、薬剤師、栄養士など）とのカンファレンスを実施しています。病気の進行に伴う嚥下機能、認知機能、コミュニケーション機能などについて、主治医や病棟看護師と情報共有を行い、ご家族への指導も含めて積極的に支援しています。

先輩からのメッセージ

当院では、神経筋疾患の患者さんを中心にリハビリを行っています。昨年新人として配属され今年度で二年目になります。嚥下評価・訓練、発声訓練などまだわからないことも多いですが、毎日患者さんと向き合うことで学ぶことも多いです。上司や同僚、多職種の方々と力を合わせ臨床に臨んでいます。





高松医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期



長期療養



対象疾患



脳血管



運動器



呼吸器



心臓

がん



神経難病



重症心身障害



発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 神経筋疾患を支える難病医療の拠点
- 2 結核を含む呼吸器疾患の専門医療
- 3 高齢者・障害者に優しい医療

当院は、香川県難病医療支援ネットワークの拠点病院です。地域を支える病院として、神経筋疾患分野の難病医療、結核を含む呼吸器疾患の専門医療、高齢者や障害者にも優しい一般医療の3つを柱に診療を行っています。

リハビリスタッフ



PT 6名



OT 3名



ST 2名

神経難病や呼吸器疾患の患者さんを中心に、在宅復帰を見据えた維持期リハビリテーションを行っています。リハビリスタッフ間はもちろん、多職種との連携も良好で、患者さんに寄り添った支援を大切にしています。(職場長より)

アクセス

〒761-0193

香川県高松市新田町乙8番

☎ 087-841-2146 (代)

リハビリテーション科
理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当院の言語聴覚療法では、パーキンソン病、ALS、多系統萎縮症などの神経筋疾患や呼吸器疾患を中心に対応し、構音訓練、高次脳機能評価、嚥下訓練を実施しています。診断直後から長期的に関わることも多く、病期に応じた支援を行っています。また、ACPや関係者会議にも参加して、全人的な医療に努めています。パーキンソン病短期集中リハビリ入院では、LSVT®LOUD認定ST2名による集中的な訓練を実施し、退院後を見据えた情報提供も行っています。



教育体制・学術活動

科内では定期的に勉強会を開催して、訓練方法の見直しや学会発表前のプレ発表を行っています。また、主治医を含む多職種カンファレンスも活発で、多角的な意見を取り入れながら臨床経験を積むことができます。さらに、県士会や各種研修会・勉強会への参加も支援しています。

学術論文掲載:令和7年度_1件

症例報告「押しボタン法により発話明瞭度が飛躍的に改善した多系統萎縮症の1例」
『ディサースリア臨床研究』2025;15:2-7

多職種連携

毎週、医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど多職種によるカンファレンスを実施し、活発に意見交換をしています。嚥下造影検査では、医師、管理栄養士、放射線技師らと連携し、訓練方法や食事形態、栄養補給方法など今後の方針を検討しています。

先輩からのメッセージ

パーキンソン病短期集中リハビリ入院、包括的呼吸リハビリ入院、筋ジストロフィー・多系統萎縮症・筋萎縮性側索硬化症の方を対象とした在宅サポート入院など、多職種で包括的に支援を行う計画入院に言語聴覚士として関わっています。「食えること」「伝えること」を支えるために、病期に応じた評価・訓練や長期的な経過を見据えた臨床判断が必要ですが、その分、疾患理解や専門性、実践力を高めることができます。悩んだ際にはすぐに相談できる体制があり、新卒の方も安心して臨床に取り組めます。経験者の方も新たな視点や臨床の幅を広げられる職場です。





四国こどもとおとなの医療センター

対象病期

高度急性期 ✓

急性期 ✓

回復期 ✓

長期療養 ✓



対象疾患



脳血管 ✓



運動器 ✓



呼吸器 ✓



心臓 ✓



がん ✓



神経難病 ✓



重症心身障害 ✓



発達障害 ✓



精神科 ✓

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 こどもからおとな、急性期から慢性期まで
- 2 多彩なリハビリに幅広く対応
- 3 心も彩るホスピタルアート

成育医療・成人医療・重症心身障害児（者）医療に対応する複合型病院です。当科では、小児から成人まで、急性期から慢性期まで幅広いリハビリを提供しています。院内を彩る「ホスピタルアート」も見どころです。ぜひホームページをご覧ください。

リハビリスタッフ



PT 15名



OT 6名



ST 6名

“こどももおとなも支える”をテーマに、年齢や疾患を問わず幅広い症例を経験できます。多職種と連携するチーム医療の中で、臨床力と対応力を磨ける環境です。若手職員も安心して成長できる温かな職場です。（職場長より）

アクセス

〒765-8507

香川県善通寺市仙遊町2丁目1-1

☎ 0877-62-1000（代）



リハビリテーション科

理学療法士長・作業療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

成人・小児の両分野に対応しており、成人リハビリでは、脳血管疾患や誤嚥性肺炎患者に対する言語訓練・嚥下訓練を実施しています。小児リハビリでは、言語発達遅滞、自閉スペクトラム症、吃音、難聴など幅広い疾患に対応しています。また、小児耳鼻科での聴力検査やNSTラウンド、地域健診(1歳半/3歳児健診)にも携わっています。急性期から小児分野、聴力検査まで幅広い経験を積めることが当部門の魅力です。



教育体制・学術活動

新採用者には、新人教育プログラムに沿って、1年間のスケジュールをもとに指導者が丁寧に指導を行っています。また、新採用者・転入者向けのオリエンテーションも充実しています。悩みや疑問を気軽に相談できる、話しやすい環境づくりに努めています。

学会発表:令和7年度_0件

科内勉強会をはじめとした研修活動を定期的実施しています。また、学術活動に意欲のあるスタッフに、学会での発表準備や研究活動を支援する体制を整えています。

多職種連携

成人部門では、各科ごとに週1回の多職種カンファレンスを開催し、情報共有を行っています。在宅復帰患者に対しては退院前カンファレンスを実施し、退院後も安心して生活できるよう支援しています。成育部門では、発育・発達に応じた介入を行い、主治医や看護師との合同カンファレンスを実施しています。

先輩からのメッセージ

当院は急性期病院であり、小児から成人まで多種多様な疾患のリハビリテーションを経験することができます。担当する患者さんは多いですが、その分、多くの臨床経験と知識を積むことができます。患者さんの病態や評価・訓練内容についてSTだけでなく、PT/OTの担当者とも気付いたことをすぐに相談できる環境が整っています。





国立療養所 大島青松園

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

長期療養



対象疾患

脳血管

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症



当院の特徴

- 1 穏やかな環境で寄り添う支援
- 2 多職種で支える高齢者リハ
- 3 歴史を学び、専門性を深める

当園は瀬戸内海に浮かぶ大島に位置するハンセン病療養所です。穏やかな自然環境の中、入所者一人ひとりに寄り添った支援を行っています。多職種と連携し、後遺症や高齢化に伴う身体機能低下、認知症、摂食嚥下障害などに対応し、生活全体を支える包括的なリハビリテーションを実践しています。

アクセス

〒764-0198

香川県高松市庵治町6034-1

☎ 087-871-3131 (代)

リハビリテーション科
副理学療法士長まで



リハビリスタッフ



PT 2名



OT 1名



ST - 名

リハビリ部門は、入所者の皆さんと継続的に関わる中で、疾患や障害特性だけでなく、その方の生活背景や価値観を踏まえた支援を学ぶことができます。落ち着いた環境の中で歴史的背景を有する療養所に特化した役割と、専門性を習得できる職場だと思います。

教育・指導体制の充実を図り、対外研修に参加しやすい環境づくりに取り組んでおり、ワークライフバランスを大切にしたい働きやすさも当園の特徴です。

(職場長より)

対象病期

高度急性期

急性期 ✓

回復期 ✓

長期療養 ✓



対象疾患



脳血管 ✓



運動器 ✓



呼吸器 ✓

心臓



がん ✓

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 都道府県がん診療連携拠点病院
- 2 がんゲノム医療拠点病院の指定
- 3 がんのリハビリテーション研修を主催

当院は都道府県がん診療連携拠点病院であり、2019年にはがんゲノム医療拠点病院の指定を受けました。また、緩和ケア病棟を併設しており、がん患者さんに急性期から緩和期までの医療を提供できる体制を整えています。さらに、「がんのリハビリテーション研修」を主催する立場にあり、講師やファシリテーターを務めています。

リハビリスタッフ



PT 5 名



OT 1 名



ST 2 名

当科は、主に周術期・進行期から緩和期までの「がんリハビリテーション」を担っています。療法士はもちろん、医師・看護師もがんのリハビリテーション研修を受講できる体制を整えています。診療業務に加え、研究活動にも力を入れています。（職場長より）

アクセス

〒791-0280

愛媛県松山市南梅本甲160番

☎ 089-999-1111（代）

リハビリテーション科
理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当院は、緩和ケア病棟が併設されており、がん患者さんの急性期から看取りまでケアする体制が整備されています。リハビリテーション内容も、頭頸科領域を中心に消化器や呼吸器疾患等幅広い疾患を対象とした周術期リハビリや化学療法・放射線療法治療患者さんに対する有害事象に配慮しながらの維持期リハビリテーションや緩和期のリハビリテーション等多岐にわたっています。



教育体制・学術活動

当院のセラピストは、「がんリハビリテーション料」の算定に必要な「がんリハビリテーション研修」の受講が必須となります。また、当科の新人教育プログラムに基づき、円滑に診療業務を行えるようサポートしています。さらに、週1回の文献抄読会を開催し、知識や最新の知見を深めています。

学会発表:令和7年度_0件

日本言語聴覚士協会、愛媛県言語聴覚士協会、四国がんリハビリテーション勉強会、日本がんリハビリテーション研究会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会に所属

多職種連携

リハビリテーションカンファレンスや頭頸科カンファレンス、多職種カンファレンス等に参加し、医師や看護師、管理栄養士、臨床心理士等と情報共有を行っています。また、退院時には地域連携室やMSW等と連携し、退院後の生活に向けた支援を行います。

先輩からのメッセージ

頭頸部がんや食道がんの周術期リハビリテーションを中心に脳転移等の高次脳機能障害、誤嚥性肺炎を対象とした呼吸器リハビリテーション等幅広く対応しています。治療を行う際の副作用や合併症を考慮しながら総合的にアプローチし、より良いリハビリを提供できるよう精進しています。PT/OT/STの距離も近く、雰囲気よく勤務しています。一緒にがんリハビリテーションのエキスパートを目指して知識を深めていきましょう。





Ehime Medical Center

愛媛医療センター

対象病期

高度急性期

急性期



回復期



長期療養



対象疾患



脳血管



運動器



呼吸器



心臓



がん



神経難病



重症心身障害



発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 結核、重症心身障害、神経難病の対応
- 2 小児から成人まで幅広い支援
- 3 地域を支える救急・急性期医療

政策医療と地域医療を2本柱としています。結核、重症心身障害、神経難病の専門医療施設として県内全域から患者さんを受け入れているほか、ポストNICU病床を設け、小児医療にも取り組んでいます。地域医療では、周辺地域の急性期医療や内部障害・神経・運動器疾患のリハビリテーション、生活習慣病対策にも力を入れています。

リハビリスタッフ



PT 9名



OT 4名



ST 3名

当科の対象疾患は、運動器・脳血管・呼吸・循環・障害児者など多岐に亘っており、技術の研鑽だけでなく、学会発表や各領域の勉強会・研修会への参加等の学術活動、各資格取得などを奨励しています。これらに対して、医師からのバックアップも充実しています。
(職場長より)

アクセス

〒791-0281

愛媛県東温市横河原366番地

☎ 089-964-2411 (代)

リハビリテーション科
理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当院の言語聴覚療法では、神経筋難病、脳血管障害、呼吸器疾患、心疾患などの患者さんに対し、摂食嚥下訓練や構音訓練、高次脳機能訓練、コミュニケーション手段の検討、呼吸訓練を行っています。また、重症心身障害児者病棟でも定期的な嚥下機能評価や訓練、コミュニケーション支援を行っています。患者さんの状態に応じて、パソコンやiPadを活用したコミュニケーション手段の習得にも取り組み、一人ひとりに寄り添った訓練を目指しています。



教育体制・学術活動

新人教育プログラムをマニュアル化し、新人育成や症例検討、院内勉強会などの学術活動を推進しています。“気づき”や“考え方”の幅を広げることを重視し、さまざまな視点から患者像を捉えられるよう、スタッフ間で密にコミュニケーションを図りながら指導・助言を行っています。

学会発表:令和7年度_0件

昨年・一昨年には、NSTや医療安全部門と共同で、院内における誤嚥・窒息予防を目的に、嚥下のメカニズムから口腔ケア、食事形態、食事介助方法までをテーマとした研修会をシリーズで開催しました。

多職種連携

呼吸、栄養、糖尿病などのさまざまなサポートチームにリハビリテーションスタッフが所属しています。言語聴覚士として、栄養サポートチームや看護部主催の嚥下勉強会で講師を担うなど、チーム医療の一員として患者さんに貢献できるよう努めています。

先輩からのメッセージ

当院の患者さんにはご高齢の方や神経難病の方が多く、不安を抱える患者さんへの「寄り添う姿勢」などが機能訓練と同じくらい大きな支えになっていると思っています。正解が見えずに悩むことも多いですが、同僚にはいつでも相談できる仲間がたくさんいます。一緒にベストな支援を考えていきましょう。





高知病院

対象病期

高度急性期

急性期 ✓

回復期

長期療養 ✓



対象疾患

脳血管



運動器 ✓



呼吸器 ✓

心臓



がん ✓

神経難病



重症心身障害 ✓

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

当院の特徴

- 1 呼吸器センターで包括的医療を実践
- 2 呼吸器・整形・がん・重心に対応
- 3 人工関節・骨折術後を早期から支援

主に呼吸器疾患、整形疾患、がん、重症心身障害の患者さんを対象にリハビリテーションを行っています。呼吸器分野では、平成23年8月に呼吸器センターを設立し、医師をはじめ多職種と連携した包括的な診療を実践しています。整形疾患では、人工関節置換術や骨接合術後の患者さんに対し、早期リハビリテーションを提供しています。

リハビリスタッフ



PT 9名



OT 3名



ST 2名

「患者さんへ最善のリハビリテーション医療を」を理念に、一人ひとりが患者さんに寄り添い質の高いリハビリテーションを提供しています。地域の急性期医療に加えて、結核医療や重症心身障害のセーフティネット医療にも対応しています。（職場長より）

アクセス

〒780-8507

高知県高知市朝倉西町1-2-25

☎ 088-844-3111 (代)

リハビリテーション科
理学療法士長まで



言語聴覚部門

部門紹介

当院の言語聴覚療法では、主に呼吸器疾患、がん、重症心身障害児（者）の患者さんを対象に、摂食嚥下機能訓練や発声・発語訓練などの言語療法を行っています。特に呼吸器疾患の患者さんには、在院日数の短縮を目指し、多職種と連携しながら早期に介入し、経口摂取の開始を支援しています。また、重症心身障害児（者）には、小児から成人まで幅広く対応し、病棟での生活やニーズに寄り添いながら、成長の促進や機能低下の予防を目指して介入しています。



教育体制・学術活動

言語聴覚士はもちろん、理学療法士や作業療法士からも職種を超えた指導・助言を受けられる環境です。他部門との連携も取りやすく、院内外の研修や講習会への参加を通して知識・技術を深めることができます。また、臨床能力の向上や学会発表などの学術活動に対する支援体制も整っています。新人教育では、約1週間は指導者の診療を見学し、その後は少人数の患者さんを担当します。指導者が継続的に助言・支援を行い、安心して業務に取り組めるようサポートしています。

学会発表:令和7年度_0件

これまでに国立病院総合医学会の優秀演題賞・ポスター賞や、院内で創設された「谷淳吉賞」を複数回受賞し、講演会や研修会では講師も務めています。現在は当科主催で、中国・四国グループ所属のSTを対象に、臨床研究に関する定期勉強会をWEB開催しています

多職種連携

各病棟・診療科ごとに、多職種（医師、看護師、メディカルソーシャルワーカーなど）で週1回カンファレンスを実施しています。退院前には必要に応じて退院前カンファレンスを行い、情報共有を図っています。重症心身障害児（者）病棟では、月1回、主治医や看護師を交えたカンファレンスを実施しています。

先輩からのメッセージ

重症心身障害児者の方から呼吸器疾患、がんの方まで幅広い疾患に関わっており、ニーズに沿った良質なリハビリテーションを実施できるよう日々試行錯誤しております。日々、臨床に関わることにより技術や知識の向上に繋がっていると感じます。上司や看護師、医師にも相談しやすい環境が整っており、気負いすることなく臨床に挑めています。勉強会や学会にも積極的に参加出来るため、知識の幅は広がります。現在子育て中ですが、産前休暇、育児休業、子の看護休暇等福利厚生も充実し、安心して働かせて頂いています。

